
IN MY DREAM

星月奈々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I N M Y D R E A M

【Nコード】

N 7 7 9 7 T

【作者名】

星月奈々

【あらすじ】

夢にとらわれた男の話。

眼を開け、男はため息をついた。

まず初めに白い天井が眼に入った。体を起こして部屋を見回すとどうやら六畳ほどの病院の個室のようだった。左側にはテレビなどによく見る心電図を映すような機械があった。電源はついていない。右側には少し大きな出窓が部屋の中に暖かな日光を取り入れていた。白い壁がその光を反射し、まるで部屋全体が薄っすらと発光しているようだった。

体を起こしベッドから降りて窓から外を見た。外に人間の姿は無い。窓を開けようとするが、窓に触ることは出来ない。これもいつもと同じことだった。そして、ジーンズの背面の右ポケットには覚えの無い新品の睡眠薬の箱が入っていた。

一体、これで何回目になるだろうか。昨日は監獄、その前はホテルの一室だった。

男は夢を見続けていた。夢の中で寝て、夢の中で目覚めた。起きるのは必ず何らかの個室で時間も様々だ。また共通して部屋のものに触れることは出来てもドアノブや窓のサッシに触れることは出来なかった。無論壁を壊すことも不可能だった。そして、必ず右ポケットに睡眠薬が入っている。初めは（何時からが始まりなのか分からないが）リアルな夢だと思った。時々見るやけに現実感のある夢だと思っていた。そこで、男は試しに夢の中で睡眠薬を使い寝てみたのだ。結果、夢から抜け出す事が出来なくなった。眼を覚ます度に違う部屋で目覚め、することも無いので睡眠薬を使い眠りにつく。そして、違う部屋で眼を覚ますのだ。

そこで、男は考えた。所詮、これは夢の世界なのだ。ならば、何

らかの方法を持って目覚めればこのわけの分からない世界から抜け出せるのではないか。このまま眠らずに何か痛みを持って眼を覚ませばいつか目覚めるのではないかと。

そして、それは成功した。

今いるこの病室は昨日の自分が見ている夢なのだ。次の自分は確か学校の保健室で寝ているはずだ。男は自分の太ももを鋏で刺す事の痛みで夢を一個遡ってきたのだ。

しかし、そこで思い出した。今の自分は痛みで眼が覚めた自分ではない。明日の自分は太ももでは眼が覚めず手首を切ったのだ。つまり、明日の自分が死んだことで今に戻ってきたのだ。ならば、このまま死に続ければ現実に戻れるのだろうか。現実と判断するのは簡単だ。しかし、全て確実に上手くいく保障など無いし男に死ぬ勇氣などあるはずは無かった。何より今の自分はどうなるのだろうか。もしかしたら、今の自分が本物なのではないだろうか。考えるほどに泥沼にはまっていく。幸い、なのかそばには手術用のメスが一本置かれている。男は、それを頸動脈に当てる。あと、少しだけ力を加えれば、大量出血で死に至る。誰も助けてはくれない。血が流れ続けるのを見て、そしてゆっくりと視界が消える。途端に、全身が震えだした。全身から冷や汗が溢れだした。男の手からメスが零れ落ちた。そして、男は睡眠薬に手を伸ばす。

目覚めると、男は保健室のベッドの上にいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7797t/>

IN MY DREAM

2011年10月9日04時03分発行